

第22回「福岡県
美しいまちづくり」
建築賞

'09

the 22nd.

fukuoka

prefecture/

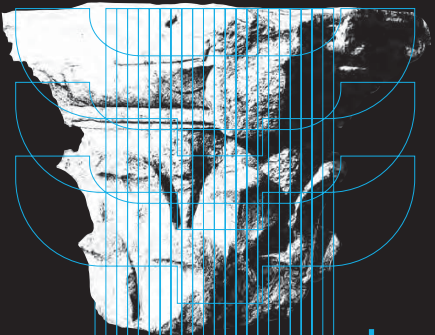
architectural

award for

artistic

urban

design



第22回「福岡県
美しいまちづくり」
建築賞

'09

the 22nd.

fukuoka

prefecture/
architectural

award for

artistic

urban

design

総評

「福岡県美しいまちづくり建築賞」は、福岡県の「地域の自然、風景、歴史、文化、生活、活動等を背景とした景観の形成に寄与するとともに、建築計画において優れた建築物」を表彰する制度です。今年度は、総計81件の応募作品がありました。賞の選考は、10名で構成される選考委員会が、審査要件を満たさない8件を除いた73件の作品を対象に行っています。関連して、昨年の応募作品総数は、88件でした。

1次審査においては、「住宅の部」37件から6作品を、「一般建築の部」36件から5作品を現地審査の対象に選考しています。現地で行われる2次審査では、設計者と建築主の皆様方から作品の詳細をご説明いただき、その後の選考会において、各部門の大賞、優秀賞、奨励賞の各1点を表彰作品に選出しています。各賞の表彰は、作品の所有者、設計者および施工者の方に対して行われます。そのうち、大賞と優秀賞は福岡県知事から、奨励賞は(財)福岡県建築住宅センター理事長から表彰されます。

「住宅の部」の現地審査では、与件となる将来の生活プログラムを、敷地環境に照らし合わせて丁寧に読み解いた設計が多く、いずれの作品でも、依頼主の方々がとても満足されておられたことが印象に残ります。「一般建築の部」は、景観と環境と空間に対して、究めて高度な設計コンセプトを展開する作品となっていて、特に、設計事務所の組織力を駆使した環境性能評価向上の技術力には強い関心を持つことができました。

住宅部門の大賞受賞作品「ベットと暮らす家」は、狭小の借地で犬猫と暮らす住まいを、減築という発想で、手作り感のある楽しい空間に造り上げています。優秀賞受賞作品「LEAF HOUSE」は、定年後の夫婦が暮らし、時には20人の親類家族が一同に集うしつらいの場を、三つの中庭を介して九つの部屋を結び合わせる巧みな手法で造っています。奨励賞受賞作品「サトヤマヴィレッジ13号地」は、雑木林を共有する戸建て分譲住宅地において、住戸間のプライバシーを確保するためのデザイン基準を示すモデルとなっています。

一般建築部門の大賞受賞作品「天神MENTビル」は、敷地が持つ都市の文脈を、建築内外の造形に反映させることで、個性的な空間性能を与えることに成功しています。優秀賞受賞作品「東比恵ビジネスセンター」は、CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)に適合する環境負荷削減を實踐して、都市活動の快適性と建築の環境性能を高めています。

奨励賞受賞作品「ふくおかフィナンシャルグループ本社ビル」は、環境性能や耐震・免震技術に優れているとともに、福岡城址景観と向き合うパブリックガーデンが景観効果を高めています。

福岡県美しいまちづくり建築賞選考委員会委員長 工藤卓

大賞

住宅の部

ペットと暮らす家[K邸減築工事]

所在地:福岡市中央区



設計趣旨

猫9匹、犬1匹と暮らす家。敷地は、狭小の借地区画に木造住宅が密集して建ち並ぶ街区の中、間口4m、奥行き23mであった。既存建物は必要十分な床面積があったため、これを改築利用するものとして様々な可能性を検討した結果、依頼者が望む安全快適な住環境を実現するためには、この大きさはむしろ不要であると判断した。

ここでは、サステナビリティの観点からも、間口、奥行、高さともに、既存よりあえて縮小して造り直す「減築」が望ましいと考えた。生活の中心となる居間は、減築によってできた前庭(犬の庭)と中庭(猫の庭)に面することで、十分な採光と通風(そして癒し)を確保している。



講評

建坪率100パーセント近くの古い木造住宅が建ち並ぶ街区の借地にこの住宅は建っている。裏には幅2メートルにも満たない路地が走る。この特殊ともいえる場所で、車を持たずに、犬猫と暮らす小さな造りに減築建て替えしたところに、この住宅の新規性がある。ペットとの共生を、余分なもののない減築の手法で考えることは、これからの人口減少社会における高齢化対応住宅のあり方にも示唆を与えてくれる。

ここでは、必要以上に建物の立派さや、維持管理性は追求していない。犬一匹と猫9匹を友達にして暮らすという幸せを大事にしている。犬は前庭と犬走りを回遊し、猫は猫走りと猫階段を縦横に疾走できる。

消臭性のある内装塗壁の素材は、建て主が探し出したものだという。手作り感のある立体的な空間の広がりを楽しんでいる。

設計者

有限会社Y設計室
代表取締役 家原英生
〒810-0042
福岡市中央区赤坂1丁目15番15-503号
TEL 092-715-5410
URL <http://homepage3.nifty.com/y-sekkeishitsu/>

建築主 施工者 用途 構造規模

個人
有限会社岡部工務店 代表取締役 岡部登志保
一戸建住宅
木造 2階建

大賞

一般建築の部
天神MENTビル
所在地:福岡市中央区



設計趣旨

小規模開発による用途の更新・更改が進む今泉地区は、天神から南側へと商業圏をつなぐ役割を担いつつあり、新たな人の流れを誘導しようとしている。天神と今泉の境界線とも言える国体道路に接する本建物は、天神地区から今泉地区へのゲートとしての位置付けを持つべき立地にあり、その機能と意味を持たせるべく計画された。

三方の前面道路がもつスケールに応じ、三面のファサード各々が壁面や床板を意味するプレートによって分節されている。アーバンスケールでは地区のランドマークとして建物の特徴を明確に表現し、ヒューマンスケールでは天神から今泉へと続く「路地」を内包した新たな人の流れを生み出す仕掛けを与えた。



講評

発展する天神の商業地区界隈と、古い街区の情景が残る今泉地区に両面する敷地の都市的文脈を、建築内外の空間造形に反映させた設計の取り組みが注目される。特に、道路境界から後退させた外壁3面に対して、ジグザグと市松の幾何学模様を連続させてLEDの景観照明で際立たせたことは、立地環境の条件を読み解いたランドマークとして認識されよう。また、低層部に嵌め込んだ立体的な街角路地が空間的な魅力を見せている。2階の路地が粹取る天神と今泉の眺めからは、両地区を特徴付ける景観の差異が垣間見えて楽しい。ビル全体の環境性能の向上、鉄骨造の特性を生かしたオフィス空間の開放性、3.25mの天井高なども気持ちよい。いずれの試みも、都市における店舗・事務所ビルの空間性能を際立たせた価値あるデザインといえよう。



設計者 株式会社竹中工務店九州一級建築士事務所
吉田寛史
〒810-0001
福岡市中央区天神4丁目2番20号
TEL 092-733-0310
URL <http://www.takenaka.co.jp/>

建築主 シャイニングノヴァ特定目的会社 取締役 長瀬一
施工者 株式会社竹中工務店九州支店 支店長 山本光男
用途 店舗
構造規模 鉄骨造 地上9階地下1階

優秀賞

住宅の部
LEAF HOUSE
所在地: 福岡市城南区



設計者
大石和彦建築アトリエ
大石和彦
〒814-0002
福岡市早良区西新7丁目2番7号
TEL 092-823-0882
URL <http://members.jcom.home.ne.jp/oishi.architect/>

建築主
個人

施工者
株式会社齊藤工務店 代表取締役 齋藤朋貴
前田建具製作所 前田英治

用途
一戸建住宅

構造規模
木造 2階建

設計趣旨

定年を迎えたご夫婦の生活を、広大なワンルーム空間として成立させるのではなく、小さな室を有機的に結合させることで計画した。隣接した各室は、可動建具の開閉により、室同士が連続する開放性とそれぞれが個室として独立できる閉鎖性を持ち合わせ、シーンに応じてフレキシブルな空間スケールを生み出している。各室(棟)には壁と切り離されたフラット屋根-LEAFがかかっており、LEAFの重なる間隙はハイサイドライトとして、四季と共につつろ光を多方向から捕らえている。このことにより、建物を従来型の南庭配置や塙の囲いから解放し、道路に開いて確保したオープンスペースは、まちと共有される風景となっている。

講評

定年後の夫婦二人の家である。時々には20人の親類家族が集うという建て主の要望に、丁寧に応えた設計である。コンパクトで快適に、かつ多人数が泊まることのできるという、核家族世代が切望するある種の住宅像をこの住宅は示している。

9つの空間ボリュームに区分された機能室群は、三つの中庭を挟んで円環状に結び合わされている。高窓と中庭から各室に回り込む光の移ろい、中庭に粉雪が舞う情景、そして水盤コートを奏でる水音は、建て主のたいなる喜びであるという。各室の開口を中庭に開き、外に閉じたことは、伝統的な屋敷型住宅地景観の塙の解体デザインにもつながっている。昨今では、ともすれば塙や垣根を壊して潤いを欠いた駐車場に変わることが多い。ガレージを敷地奥に引き込んで、道に接して花木を植え、庭石を据えたこの前庭景観は素敵だ。

優秀賞

一般建築の部
東比恵ビジネスセンター
所在地: 福岡市博多区



設計者
株式会社竹中工務店九州一級建築士事務所
吉田寛史
〒810-0001
福岡市中央区天神4丁目2番20号
TEL 092-733-0311
URL <http://www.takenaka.co.jp/>

建築主
福岡地所株式会社 代表取締役 八木聖二
野村不動産株式会社 法人カンパニー執行役員 土生哲雄
株式会社竹中工務店九州支店 支店長 山本光男

事務所
事務所

構造規模
鉄骨造 11階建

設計趣旨

テナントオフィスビルの開発事業である。計画地は、福岡空港と博多駅の間位置する東比恵、発展が期待される街である。時流にとらわれず、新しくかつ親しみのある、そして周辺地域を活性化させるテナントビルの創出を試みた。また、九州・福岡におけるオフィスビルのニュースタンダードとなるような「動きやすいオフィス」の展開を図った。

具体的には、ポツ窓デザインの新たな展開を意図した織物のような外観を形成した。この外装は、自然の光と風をフレキシブルに取り入れる「呼吸する外皮」であり内部環境の向上にも寄与している。また、公開空地部分には建物と一体的な緑化エリアを形成するなど環境に配慮した空間を創出した。

講評

今後の発展が期待されている福岡市東比恵地区の貸しビルである。注目すべきは、ビル全体にCASBEE(建築物総合環境性能評価システム)に適合させる省エネや省資源対応の環境負荷削減を実践していることである。なかでも、外装プレキャストパネルは、熱負荷の低減と建設の経済的合理性を向上させる緻密なアイデアにあふれている。

昨今の全面ガラスのカーテンウォールのビル表層と趣を異にした、独創的な都市景観ランドマークとして評価されよう。また、公開空地を利用した植栽と景観照明のある庭園整備や壁面緑化、地下鉄と接続する出入り口周りの建築的一体化、店舗ファサードと看板の統合などにも好感がもてる。

一見地味な印象のデザインではあるが、都市活動の快適性と建築の環境性能に必要な空間の秩序形成に対して、きわめて的確な仕様の解決を示している。

財団法人 福岡県建築住宅センター 奨励賞

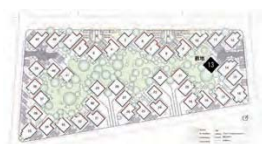
サトヤマヴィレッジ13号地

所在地:北九州市若松区

設計趣旨

サトヤマヴィレッジは中央に“サトヤマ”を共有して計画されており、個別の宅地は専有であるが、アプローチ等も実質的に共有されている。サトヤマの共有によって住民相互のコミュニティを醸成しながらもプライバシーを確保するために、本プロジェクトでは開口部のルールを定めた“開口制限”を導入したため、隣家が近接している箇所でも開放感が感じられるようになっていく。

本プロジェクトの成果は、住宅の設計のみで達成されたものではなく、開発手法の模索、街区の設計、ランドスケープデザイン、外構照明計画等多岐にわたる検討を各プロフェッションが協力して行ったことによって実現したことは言うまでもない。



講評

分譲住宅地の真ん中に雑木林を造って住民同士で活用するというプロジェクト提案が面白い。すべての住戸を南向きに、道路に対してはジグザグに配列され、敷地内にも好みの雑木を植樹することがあらかじめ設定されている。ゆくゆくは、雑木林の中に駐車場付きの住戸が散在して、別荘地のような景観を楽しむまちなみとなるのが期待できよう。こうした、塀や垣根で区画することなく、壁面4面を開放可能にした住戸が近接する計画では、隣り合う各戸のプライバシーを確保するための隣棟間隔や、窓の向きと大きさを規制する独自のデザイン基準が必要になる。

13号地住宅は、この基準を検証したモデルとなっている。街区全体の計画方針に従って、新しい街区コミュニティを創るための住戸のかたちを示すこの住宅の先導的デザインが果たす効果は大きい。

設計者

北九州市立大学赤川研究室 赤川貴雄
〒808-0135 北九州市若松区ひびきの1-1
URL <http://esd.env.kitakyu-u.ac.jp/kagawa/>
西部ガスリビング株式会社 金崎圭吾
〒812-0044 福岡市博多区千代1丁目17番1号
TEL 092-633-2100
URL <http://www.sg-living.co.jp/index.html>

建築主 株式会社エス・コンセプト 代表取締役 馬越肇治
施工者 西部ガスリビング株式会社 代表取締役常務取締役 高田訓
用途 有限会社田丸緑地建設 代表取締役 小西金治
構造規模 一戸建住宅 木造 2階建

財団法人 福岡県建築住宅センター 奨励賞

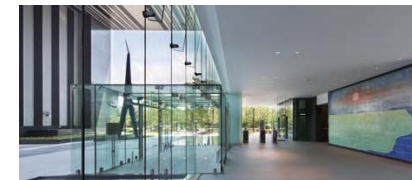
ふくおかフィナンシャルグループ本社ビル

所在地:福岡市中央区

設計趣旨

ふくおかフィナンシャルグループ本社ビルは、銀行の本部ビルとして計画したオフィスビルである。敷地前面は公園が広がっており、市の代表的な景勝地となっている。本計画ではオフィスの足元に誰でも行交うことのできる広場を設け、緑豊かな景勝地に調和し、街との共生を目指すものとしている。

広場は、オフィスの規模に劣らない広さを確保し、3方向開放、天井高15mのロビー空間とした。さらに、広場を訪れる人々や働く人々にとつて、親近感と潤いの感じられる空間とする様々な設えを施した。緑、水、光など自然の要素の取り込みに加え、九州在住作家のアートワーク屋外彫刻:ダブルファンタジー:菊竹清文作、陶板壁画:青い道:中島宏作、福岡にゆかりのある情報を盛り込んだ造形等を施している。



講評

メガストラクチャーと呼ばれる巨大な構造フレームで覆われたパブリックガーデンが、この建築の存在感を際立たせている。高さ15mの吹き抜けに設置された一対の環境彫刻(ダブルファンタジー)の一方は、地上の風を吸い込み、他方は、天空に向かって何かを語りかけているようだ。敷地外周部に植えられた70本の高木が、向かい合う舞鶴公園の城址石垣、水堀、桜並木に連続して清々しい。建築の表層がやや堅く見えるのは本社ビルの性格を示すものであろう。しかし高層部内部からの眺望は見事にデザインされている。太陽光や地中熱利用の環境性能向上や、耐震・免震に高度な技術を駆使した最新の建築計画であることに加えて、公共性のある優れたパブリックガーデンを内包したことで、周辺一体に緑豊かな都市景観の形成を促す影響力を持つことになるだろう。

設計者

株式会社松田平田設計
代表取締役社長 中国正樹
〒107-8448
東京都港区元赤坂1丁目5番17号
TEL 03-3403-6161
URL <http://www.mhs.co.jp>

建築主 株式会社福岡銀行 取締役頭取 谷正明
施工者 戸田建設株式会社九州支店 支店長 安達勇
用途 事務所
構造規模 鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造 地上14階地下1階